

令和5年度 第2回江別市行政改革推進委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和5年10月13日（金） 10:00～12:07

場 所：江別市民会館23号会議室

出席委員：千里政文委員長、吉川哲生委員、福沢康弘委員、野村奈津子委員、
富田京子委員、小野秀司委員、亀田教子委員（計7名）

欠席委員：西懸昭子委員、鈴木貢委員、野澤瞭太委員

事務局：企画政策部 白崎部長、伊藤次長
政策推進課 嶋中課長、中住主査、池田主任
総務部財務室 石田室長
財政課 横田主任

傍聴者：1名

会議概要

- 1 開会
- 2 委員長職務代理の選出
- 3 報告事項

（1）江別市行政改革推進計画の取組項目（令和4年度）について

①江別市行政改革推進計画の概要

事務局から説明

- ・江別市行政改革推進計画（2019～2023年度）（資料1）
- ・江別市行政改革大綱（平成26年度改定版）（参考資料）

【質疑】

○福沢委員

資料1の1ページに掲載されている、行政改革大綱の成果指標について、「職員の意見が施策に反映できる組織・制度になっていると思う職員割合」「コミュニケーションが良好で風通しのよい組織だと思える職員割合」について、前年度より下がっている。この理由について、どのようなことが考えられるか。

○事務局

この職員割合は、毎年実施している職員アンケートにより調査している内容である。市民アンケートにおいても職員アンケートにおいても、令和4年度は軒並み結果が前年度より低くなっているが、その理由としては、令和2年度から令和4年度の3年間にわたり新型コロナウイルス感染症拡大による事業の中止や縮小などの自粛が続き、令和4年度は3年目ということもあり、市民も職員も閉塞感が高まったことがアンケート結果に影響しているのではないかと推察している。

○福沢委員

職員アンケートは毎年同じ調査内容で、毎年同じ職員が回答しているのだろう。はっきりとした要因はわからないということで理解した。

○千里委員長

資料1の3ページにあるとおり、行政改革推進委員会は、行政改革の取組状況等に対して意見を述べる役割であり、内容を協議して決定するという役割は持っていない。しかし、学識経験者、有識者、市民委員からなる外部委員の皆さんが、市民の目線で意見を述べるということは非常に重要なことであるので、事務局は本委員会で出された意見を重く受け止め、少しでも改善できるように努めてほしい。

②江別市行政改革推進計画の取組状況（令和4年度）

事務局から説明

- ・ 江別市行政改革推進計画の取組状況一覧（令和4年度）（資料2）
- ・ 江別市行政改革推進計画の取組状況（令和4年度）（資料3）

【質疑】

○福沢委員

採用試験にSPI3テストセンター方式を採用し、令和5年度からはオンライン上での出願受付にしたとのことだが、優秀な人材を確保するためには、受験者数を増やし、採用倍率を上げることが必要である。近年の採用倍率の推移や出願者数の推移を教えてください。

○事務局

採用倍率や出願者数の具体的な数値については把握していないが、所管課からは、SPI3テストセンター方式を採用した後の出願者数は横ばいが続いており、令和5年度は減少したと聞いている。

令和5年度に出願者数が減少した理由は、他の市町村において内定が以前よりも早く出されていたことが要因ではないかと考えている。SPI3テストセンター方式に加え、今年度からオンライン上で出願を行う職員採用システムを導入したことにより、全国から応募しやすい環境を整えていると考えているので、今後は採用案内の手法の工夫と改善を行う必要があると考えている。

○福沢委員

SPI3の方が難しいので敬遠されているということはないか。試験内容に関係なく、公務員を志望する人は多いのではないかとと思う。

○事務局

SPI3の試験内容についての受験者の感想については把握していない。

SPI3テストセンター方式を採用してから明らかに変化した点として、Uターンを含め道外の受験者数が増えているとのことである。今後もこの手法を活用し、全国から

優秀な人材を集めていきたい。

○小野委員

周辺の千歳市、北広島市、石狩市などでは、様々な要因で魅力が増しているように見える。周りに比べると江別市の魅力は埋没してしまい、あまり目立たなくなっているのではないかと危惧している。そのような状況では、江別市の職員を志望する人がますます減ってしまうと考える。

○千里委員長

他に質疑等はあるか。

○野村委員

市民がまちづくり市民アンケート調査の結果を見る方法はあるのか。また、どのぐらいの市民が回答しているのかお伺いしたい。

○事務局

まちづくり市民アンケート調査については、市のホームページに結果を掲載している。無作為に抽出した市民3千人を対象にしており、3～4割程度の回収率となっている。

○野村委員

市民900人程度の意見ということか。

○事務局

調査票は、設問が異なる部分がある2種類の調査票があり、それぞれ1,500人に配布している。その中の3～4割について回収しているのご理解いただきたい。

○野村委員

アンケートの回収数は公表しているのか。

○事務局

市ホームページには、質問項目ごとに母数と回答数、その割合について公表している。

○野村委員

職員アンケートの回収率は100%なのか。

○事務局

職員には任意で回答をお願いしているアンケートであるため、8～9割の回収率である。

○千里委員長

まちづくり市民アンケート調査は紙媒体での実施か。

○事務局

紙媒体で送付している。

○千里委員長

国のアンケートなどは、オンラインで回答できるものが多い。オンラインでの調査の方が、利便性が高いと感じる人が多く、回収率が高いと聞いている。アンケートの実施には、オンラインでの実施について検討が必要なのではないかと思う。コロナ禍の中で

全国的にデジタル化の流れは大きく変化してきていると思うので、市にも検討をお願いしたい。

また、市民としても市役所には良い人材が入ってきてほしいと思う。近年景気が良い状況ではなく、公務員を志望する人は多いと思われるが、江別市の採用試験を受験する人が減ったことは不思議に感じる。以前よりも江別市役所への就職に対して消極的に感じている人が多いということなのかもしれない。実際に職場内コミュニケーションについての指標が下がっている傾向が見られ、外部の人には市役所の中のコミュニケーションのことは見えないはずだが、自然と伝わってしまっているのではないかと考える。一般的に企業の中身を良くしなければ、良い人材は集まってこないのでは、職員が感じる職場内コミュニケーションの状況と採用試験受験者数は関係しているのではないかと思う。

コロナ禍で多くの事業内容の変更や中止せざるを得なかったのは理解できるが、今後はコロナ禍を理由にはできなくなってくるので、努力を重ね、指標の数値が下がっているものは改善に努めてもらいたい。

他に質疑等はあるか。

○小野委員

意見を述べるための材料が不足している。まちづくり市民アンケートが市民3千人を対象としていることや職員アンケートについて先ほど説明があったが、資料上で個別に詳細が知りたい。また、アンケート全体の結果が下がっていることについて、ひとまとめにコロナ禍による閉塞感を理由に推察されていたが、それも少し乱暴なのではないかと思う。

この委員会は外部評価の役割もあり非常に重く位置づけられていると思うので、もう少し材料がないと意見が述べづらいつ感じる。

職員提案数は職員数に対してとても少ないように感じる。職員数は何人いるのか。

○事務局

定員管理上は806人である。

○小野委員

件数は10件であっても、素晴らしい提案が多いのかもしれない。提案の内容がどのようなものであるのかも気になるところである。

また、職員アンケート結果から職場内の風通しの悪さや職場内コミュニケーションの不足が見られていることについて、例えば非正規職員の増加など、どのようなことが職場環境の悪化につながっているのか具体的な現状の分析をしていただき、その資料も見せていただけたらと感じた。

○千里委員長

他に質疑等はあるか。

○亀田委員

職員は「地域連携避難所運営訓練」を実施しているということであるが、道内では各所で災害が発生しており、地域間での連携が必要であると考え。他市町村との協定などを結び、お互いに職員をボランティアとして派遣するなどの連携体制やルールなどを定めているのか。訓練を実施することだけではなく、実際に災害地に職員を派遣することで、職員が災害対応力を身につけることにつながると考える。

江別市は除雪について課題があると言えるが、南幌町は除雪が非常に良いと聞き、理由を調べると農家が所有する重機をフルに活用しているとのことだった。除雪については防災には直結しないが、近隣の市町村とお互いに学び合い、良いものは江別市でも積極的に取り入れていってほしいと考える。

○事務局

取組項目「職員の災害対応能力の向上」における令和4年度取組状況にある災害訓練の中には、地域住民や市内自治会と連携して実施する訓練がある。

また、地域間連携ということであれば、平成26年に江別市で大規模断水が発生した際には、他市町村からの応援で給水活動が行われている。市町村間の連携協定の内容については把握していない。

○亀田委員

必ずしも協定が必要だということではないが、災害対応に関して他市町村との連携は重要なものである。

○千里委員長

危機対策担当からも、当初の予定では職員向けの災害対応訓練はほとんどの職員が経験する予定であったが、コロナ禍で訓練自体が実施できず予定通りに進んでいないことは聞いている。自治会と連携して実施する訓練に関しても、コロナ禍以前はかなりの数を実施していたが、コロナ禍では少しだけしか実施していない。一方で、庁内では災害対応に関する協議を実施してきた。

江別市では、大雪や夏の暑さについても災害並みの状況が見られ、そのようなことも視野にいれて幅広い問題を考えていかなければならない。

被災地への職員の派遣についても、物資や発電機を届けるなどは、すでに行っていると聞いている。

○亀田委員

物資を届けるだけではなく、職員数名が実際に被災地で活動することで、実践を学ぶことにつながり、知識もさらに向上するのではないかと思う。

○千里委員長

江別市でも、東日本大震災の際に被災地に職員を派遣しているが、派遣する人員にも限りがある。

災害時には、市役所と自治会が連携することが最も重要であると考え。コロナ禍で

訓練が実施できなかったことで自治会の中には知識が備わっていない人もいられる。ノウハウを育てるために、自治会と連携して実施する訓練を一から行っていかなければならない。

○事務局

補足だが、令和4年度に開催した出前講座において、最も開催された講座は「防災・減災」についての講座であり1,367名の方が受講している。次に多かったのは「避難所運営訓練等」であり、1,151名の方が受講している。このように、出前講座という形で、災害に対する市民意識の向上を図っている。

○亀田委員

職員のモチベーションについてであるが、能力の高い人材が市役所に集まってきていると思うのだが、その能力を生かし、育てることができなければ意味はないと考える。今年の猛暑の中で職員が仕事をしているのを目の当たりにし、職員が働きやすい環境をもう少し検討するべきではないかと感じた。働く環境は職員のモチベーションにつながると考える。

○千里委員長

庁舎の暑さ対策や耐震化などについては、現在庁内で話し合われている。庁舎内の改善は、職員にとっても利用する市民にとっても良いことであるので、本委員会からの意見が少しでも改善につながってほしいと思う。

○事務局

所管部局と調整してまいりたい。

(2) 使用料・手数料の見直しについて

事務局から説明

- ・使用料・手数料の見直し方針（資料4）
- ・使用料（貸室）の算定方法（資料5）
- ・使用料・手数料の改定について（資料6）
- ・令和5年度使用料・手数料見直し算定結果及び改定素案（資料7）
- ・令和5年度使用料・手数料等見直し対象一覧（素案）（資料8）
- ・ごみ処理手数料（家庭系収集）（机上配付資料）

【質疑】

○富田委員

民生委員の立場で地域の方々から話を聞くと、近年はコロナ禍でなかなか出かけられず家の中で過ごす時間が長くなったという人が多く、その中で一軒家に住んでいる人は庭の畑づくりを楽しむ人が増えている様子である。庭の手入れを行うと、木の枝、植物の茎や葉などのごみが大量に出るので、大きな有料ごみ袋に何回かに分けて出していると聞いている。

札幌市のお話を聞くと、札幌市は木の枝や葉のごみは月に1回無料で回収しているという。市民の楽しみや生きがいなどに影響があることであるので、江別市でも月1回の無料回収を検討していただきたい。

○事務局

今回の使用料・手数料の見直し方針には、金額の改定だけではなく、サービスの向上についても検討することとしている。ご意見にあったような他市の良い事例などを所管部局に伝え、サービス内容について検討してまいりたい。

○千里委員長

他に質疑等はあるか。

○野村委員

ごみ処理手数料の値上げについて、「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」以外のごみには関係しないのか。

○事務局

「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」は同じ有料のごみ袋を使っており、曜日で分けて回収している。この有料ごみ袋の金額が、今回見直しの対象となっているごみ処理手数料である。

○野村委員

30リットルや40リットルのごみ袋はあまり使いどころがないと感じている。10枚セットでしか売っていないのか。

○亀田委員

規格外の大きさのものを捨てる時には大きなごみ袋は必要になる。

○事務局

店舗によってはバラ売りをしている。10枚セットの需要の方があるので、店頭では10枚セットの方が目につきやすいのではないかと感じる。

○野村委員

例えば、販売時の金額を維持して、セット枚数を減らすということも検討されるのか。

○事務局

販売方法として、金額を変更するのではなく枚数を変更するというような具体的な方法についてはまだ話し合っていない。市民にとって最善な方法について今後も検討してまいりたい。

○野村委員

ごみ捨ては生活に直結するものであるので、色々な方法を検討してもらいたい。

○千里委員長

他に質疑等はあるか。

○小野委員

私の庭木や生け垣の木の処理を行った際に、40リットルのごみ袋をたくさん用意し

たが足りず、業者が用意した大きな袋にまとめて入れ、直接環境クリーンセンターに持ち込んで捨ててもらった。私の住む地域は一戸建てが多く、庭木の処理に苦労している人が多い。ぜひ枝葉のごみの無料回収について検討していただきたい。

その他に、大麻公民館をよく利用するのだが、利用するようになって初めて減免制度を知った。高齢者の多いサークルで活動しているので、大変助かっている。もっと減免制度についてPRしていくべきだと思う。一方で、公民館の予約受付は未だに申込用紙での受付である。他市町村の公民館ではデジタル化が進んでいて、簡単にオンライン上で申し込めるところが多いと聞く。利用者の利便性向上のほか人件費の削減にもつながるので、江別市も導入を検討してほしい。

○事務局

ご意見のあったデジタル化の件については、市としては積極的に検討を進めなければならないと考えている。資料4「使用料・手数料の見直し方針」の5ページに「申し込み・利用手続きの効率化や利便性向上策の検討」や「デジタル化・省エネ化等によるコスト削減方法の検討」を記載した。時間が掛かるかもしれないが、少しずつでもサービスの向上に努めてまいりたい。

○千里委員長

公民館の施設利用料については、年齢によっては大きな減免制度があり、今回の金額見直しでも影響が少ない人が多いのは良いことである。

○福沢委員

市民会館の利用料が変わらないのは救われる点である。

○千里委員長

公民館等の施設利用料について、他に意見等はないか。

ごみ処理手数料については、市民への影響も大きいと思われるので、少し重点的に委員の皆さんに意見を伺いたい。

ごみ処理手数料の値上げは、家庭ごみがコンビニなどのごみ箱に持ち込まれることや不法投棄などの問題が多くなることにつながり、かえってさらに財政面を圧迫し、周辺市町村に迷惑を掛けることにもなりかねない。

また、小さいごみ袋に小分けにして出す高齢者やごみが増える子育て世代などは、影響が特に大きいことが考えられる。

本日配布された資料に「3円／リットル」以上の道内7市の金額が掲載されているが、「3円／リットル」以下の市は何市あるのか。

○事務局

道内35市のうち7市が「3円／リットル」以上であり、それ以外の28市は「3円／リットル」以下で、標準的な金額は「2円／リットル」である。

ただし、各市は当市と同様、数年おきに使用料・手数料について見直さなければならないというルールがあり、物価の高騰及びエネルギーの高騰を受けて、見直しの年度に

該当した市が協議を重ねた上で、いくつかの市ではごみ処理手数料を値上げしたというのが現状である。

○千里委員長

家庭の収入が上がらない一方、行政手続きの手数料は値上がりしている現状である。財政面が厳しいという問題があり、高齢化が進んでいるが、多くの子育て世代の転入も見られる。子育て世代が住みやすい街の印象が広まってきているところで、今回のごみ処理手数料の値上げは影響があるのではないかと危惧する。

本委員会では、要望という形で述べることはできないが、市民の生活の実態について事務局に情報提供することが重要であり、率直に市民としての意見を伝えることが必要である。

○富田委員

値上げするのであれば「3.4円／リットル」よりも「3円／リットル」にしてほしいところだが、この点の見込みはどうか。

○事務局

原価計算をする中で、おそらく「3円／リットル」から「3.4円／リットル」の範囲の原価になるだろうという見込みである。

原価はすべてのごみ処理にかかる費用を用いて計算をする。ごみには家庭が出すごみと事業者が出すごみがある。また、市が収集運搬するものと直接環境クリーンセンターに持ち込まれるものがあり、4分類に分けられる。その全てをどのようにコスト計算すれば適切な金額を算出できるのか調査しているところであり、現段階の妥当な水準として「3円／リットル」から「3.4円／リットル」としている。この水準をもとに、ご意見を伺いながら検討を進めてまいりたい。

○吉川委員

資料に掲載されている「3円／リットル」以上の7市においても、利用者負担を3分の1と計算した上でこの金額に決定しているのか。

○事務局

全ての市は把握していないが、平成16～17年頃にごみ処理の有料化を導入した際に他市に情報収集した範囲では、多くの自治体が生利用者負担割合を3分の1と設定していた。おそらく現在も同様の負担割合で計算していると思われる。

○吉川委員

資料に掲載されている7市を超える、「4円／リットル」以上の市はあるのか。

○事務局

道内にはない。

○吉川委員

江別市は道内でも最高水準になる可能性があるということか。

○事務局

お見込みのとおりである。

○亀田委員

非常に悩ましい問題である。値上げしないに越したことはないが、ごみ処理に携わる人達の人件費など色々な経費のことを考えると、手数料が上がっても明らかに高いという訳ではないのではないかと考える。

市民と事業者のごみを減らす意識を向上させるための取組を積極的に行うことで、全体の節約にもつながっていくと思う。

江別市内の公共施設の利用料金については、他市からも見ても安いと思う。設備が良いのに利用料金が安い。例えば、市民体育館はいつも混んでいると聞く。そういう意味でも値上げは仕方のないことだと考える。

子育て世代の方々からは、江別市には気楽に子連れの人たちが集える場所が少ないと聞いている。子育て世代が江別市を離れてしまうことがないように、もう少しその点についても検討していただきたい。

○千里委員長

子育て世代の集まる場所はだいぶ増えてきているように思う。「ぽこあぽこ」などは、市外から利用しに来る人もいる。

○亀田委員

そのとおりだが、地区によっては足りていないと感じている。市内の広い範囲にも目を配ってほしい。

○千里委員長

子育て世代のための取組というのは重要なことであると思うので、引き続き市には力を入れていただきたい。

他に意見等はあるか。

○野村委員

ごみ処理手数料を値上げするのであれば、先ほど話のあった出前講座などを活用してごみの減量を周知していくことが必要ではないか。

○福沢委員

確かに、値上げとセットで周知啓発活動を行うことで、市民の納得感も得られるのではないかと思う。

○千里委員長

ただいまの意見について、江別市ではごみ処理を有料化した際に、ごみの減量化やりサイクルについて啓発活動を行っていた。値上げするのであれば、市民への周知啓発というのは必ず必要になってくると考えるがいかがか。

○事務局

出前講座において、現在でも「ごみとリサイクル」についての講座を開設している。

今後ご意見があったとおり、さらに市民に広く周知する手法を考えていきたい。

環境課では環境教育ということで、小学校において「買い物ゲーム」の出張授業を行っており、ただ安く買い物をすればいいということではなく、買った結果、排出されるごみの量はどれぐらいかということも同時に学ぶ内容になっている。また、環境室ではSNSを使ってごみの減量化を呼び掛けている。

引き続き、どのような手法が市民に広く届くのかということを検討していきたい。

○千里委員長

他に意見等はあるか。

○小野委員

東京などが未だにごみ袋が無料であるのは、税金が多いことからであると思う。江別市は大企業がないので税金を増やすことは難しい。そのために、ふるさと納税にもっと力を入れて財源を確保していくべきである。行政改革推進計画の取組項目の中にあつたが、目標設定が低いのではないか。魅力ある特産品は多くあるので、よりPRを行い、収納額を増やしてもらいたい。

また、ごみ処理を有料化した際に、コンポストを作ることが呼び掛けられていたと思う。現在はあまり聞かないのだが、自宅の庭に非常に大きなコンポストを自作している人の話も聞く。

○千里委員長

コンポストは、減量に有効な手段ではあるが、その一方でかえってお金がかかるということもある。

○亀田委員

コンポストは、上手に作るができる人と、そうではない人もいる。

○小野委員

おっしゃるとおり、高齢になると、なかなか作業が大変であるが、自宅の庭で堆肥が作れるというのはいいのではないかと考える。北広島市のNPO「北広島環境市民の会」は、コンポスト作りを啓発している。コンポスト作りについてNPOと連携した啓発をやっていくべきだと考える。

○富田委員

少し前のことだが、コンポストは近所トラブルの原因になっていたような記憶がある。

○千里委員長

そのようこともあったと記憶している。

いずれにしても、環境への配慮にはある程度お金が掛かることだが、重要なことである。

ごみ処理手数料の値上げを良しとするどうかは、全市民の衣食住に関わることであり、なかなか判断が難しい。

コロナ禍で、家で過ごす時間が増えたことで、どの家庭も、ごみの量を増やさないと

うに努力をしても、増えてしまっているのではないかと思う。

○事務局

ごみの全体量は減少傾向にあったと思うが、家庭ごみは増えているようである。外出自粛の影響で事業者のごみの量が減っているかもしれない。全体のごみの量の具体的な推移について把握していないので、その推移についても調査する。

○千里委員長

人口の減少は、ごみの量の減少につながっているのか。

○事務局

ごみの減量意識の高まりも影響していると思う。市としてはごみの排出量の目標値を定めており、その目標値に近づける努力をしている。その取組状況については、別の審議会にて検証されている。

○千里委員長

だいぶご意見を伺った。ごみ処理手数料の値上げについて、本委員会で決定するものではないが、本委員会での「市民がどう感じているのか」という意見は、これからの市の検討に反映されることになる。もし他に率直な意見があれば伺いたい。

○福沢委員

先ほども言ったとおり、値上げするのであれば同時に、値上げについての啓発とごみの減量に関する情報提供を同時に行うように努めることで、市民の納得感が得られやすいのではないかと思う。

○亀田委員

江別のごみ処理施設はとても良い設備を備えているそうだが、一番の課題はごみの水分なのだと言っている。ふたのあるごみステーションではなく、網だけ設置するごみステーションではごみが雨で水浸しになり、ごみを燃やすときの効率に影響すると聞いている。

○千里委員長

ごみステーションは、市ではなく住民たちが自ら設置することになっている。

○亀田委員

そうであるが、市全体のことであるので各部署で、ごみの水分量を減らした上でごみ出しをするなど市民への意識啓発も必要だと思う。

お金が掛かることではあるし、設置場所についてのトラブルもあると思うが、網だけのゴミステーションではなく、ふたのあるごみステーションの設置を促していただき、市民自ら考えて行動するべきだと思う。市民には市に要望するだけではなく、自ら行動することも必要ではないか。

それがうまくいけば、今後、ごみ処理手数料を値上げせずに済むのではないかと思う。

○千里委員長

ごみステーションについては、市で行うわけではないし、町内で行うので、地域によ

って差が大きいのではないかと思うが、ご指摘のとおり、値上げをする一方で、ごみの出し方などの啓発活動は必要であると考えます。

他に意見はあるか。

○小野委員

基本的には値上げしてほしくはない気持ちはある。ただ、上げるにしても、上げ方について、1リットルあたりの金額を値上げして全てのごみ袋の容量に掛けるということではなく、5リットルや10リットルの袋があまり使われていないなら少し高くするとか、逆に一番使われているサイズは安くするなど何らかの傾斜をかける方法はどうか。

○事務局

ご意見にあったような、袋の大きさによって単価を変えるという考え方は、現在のところ所管課による協議の中では出されていない。ご意見を踏まえて、何らかの工夫ができるかどうかについて検討してまいりたい。

○千里委員長

世代によってよく使うサイズが異なるので、考え方は様々かと思うが、市民の本音としては「上げてほしくない」というところかと推察する。

○富田委員

この後、地域に戻ってお年寄りの方々などにごみ処理手数料の値上げについて話をすると、おそらく驚かれると想像している。今は燃料代も物価も上がっているので仕方がないと理解されるのではないかと想像する。市としては、値上げについて市民への説明を徹底していくしかないのではないかと思う。

もちろん本音では「3.4円/リットル」になるよりは「3円/リットル」になってほしいという気持ちがあるが、ごみを減らすための生活の知恵について地域の人々との交流の場で話し合い、対処していくことが必要であると感じている。

○千里委員長

概ね意見も出され、議論を尽くしたと思うのでまとめさせていただくが、全体を通して、ごみ処理手数料の値上げについては、「やむを得ない」というご意見の一方で、市民の生活に影響があるので、できれば値上げは避けてほしいが、するにしても最低限にしてほしいというご意見が出された。さらに値上げする場合、それについての周知やごみの出し方、ごみを減らすための意識啓発を行う必要があるというご意見もあった。

また、施設の使用料については、大きな反対意見はなかったということでまとめさせていただきたい。

(3) その他

○事務局

次回の会議は、12月の開催を予定している。後日、委員の皆様にご日程調整をさせていただきます。

【質疑なし】

4 閉会